

## 2018年12月18日、19日第一支部「表参道・代官山建築」研修

12月18日（火）の「表参道・代官山建築研修」は26名（会員24名、委員2名）が参加。尚、この研修は募集と同時に満席となった為、急遽翌日の19日（水）にも追加設定し、18名（会員14名、非会員2名、委員2名）で実施された。

講師は一級建築士で、世界から建築関係のお客様を実際に案内されている溝口義博 JGA 正会員。都内のガイディングで欠かせない表参道は高級ブランド店が集まる華やかさの中に、ユニークで素晴らしい建築が立ち並ぶ地区。表参道では根津美術館まで行き、更に路地も歩き、隈研吾設計のサニーヒルズも訪ねた。流行に敏感な若者に人気のある代官山周辺は建築でも最先端をいく、海外の建築愛好家からも注目を浴びるエリア。表参道の後、朝倉家住宅からヒルサイドテラス、蔦屋書店の入っている代官山 T-SITE を巡った。参加された方は、今後自信をもって両地区のご案内ができるようになったものと思います。

多くのビルを訪ねたが、主だったビルの概要は以下のとおり。①**プラダ プティック青山**（設計ヘルツォーグ&ド・ムーロン・北京オリンピックの鳥の巣設計）交差点に向かってカットされたガラスの直方体、外壁面はひし形の斜め格子で覆われ、トラスを形成している。この構造体自体は、あまりにも剛性が強いので、建物地下部に免振装置を組み込む事により大きな反力を生じることがなくなり、本構造が実現した。建物自体の形はビル立地規制を最大限利用し決まった。②**根津美術館**（設計隈研吾）本瓦葺きの切妻屋根を持つ建物が背後の庭園を守るかのように配置されている。通りから美術館に直接に入る事はせず、まず入場者は深い軒の下の、自然の竹垣と対照的に加工を施された竹壁の路地に導かれて奥にある美術館入り口に向かうという日本の伝統建築を踏まえた構成になっている。③**トッズ表参道ビル**（設計伊東豊雄）表参道の並木のケヤキをモチーフとしたデザインが外壁を覆っている。単なるデザインでなくてそれが構造体となっている。本構造は CPU の最大利用によって複雑な構造計算が出来るようになった事で可能になった。外壁のガラスは外壁面とフラットである。④**表参道ヒルズ**（設計安藤忠雄）同潤会アパートの跡地に建つ回遊性の内部空間を持つ商業施設。コンクリートの打ち放し（仕上げを行っていないコンクリート）。内部には外の道路と同じ傾斜角度の回遊の通路が有る。⑤**日本看護協会ビル**（設計黒川紀章）建物は地価の高い場所にありながら道路から後退させ、建物前面に空間を確保した事、建物の下部を切り取って大階段を設置、向こう側への大空間につなげている事など都市的スケールで建築がなされている。建物の入り口にある円錐形は黒川氏が多用したアイコン。⑥**ルイ・ヴィトン**（設計青木淳）様々な大きさのトランクが積み重なってビルを形成している。⑦**ディオール表参道**（設計 SANAA、妹島和代+西沢立衛）表面のガラスと内面のアクリルで二重になった外壁を、建て主要望のフェミニンさを表現するために提案した。半透明でふくよかな厚みを持ったビルの被膜としている。まさに風に揺らめく優雅なドレープ。夜に浮かびあがるこのビルの景観も見事⑧**代官山ヒルサイドテラス**（設計槇文彦）住居・店舗・オフィスからなる複合施設、25年間（1667年～）に渡る地区計画で段階的に建設された。